

# 「学力向上に向けた5つの提言」の実践に向けて

宮城県東部教育事務所  
平成27年3月

## 「学力向上に向けた5つの提言」(宮城県教育委員会 H25.10.16)

- 1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。
- 2 子供をほめること、認めること。
- 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。
- 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。
- 5 家庭学習の時間を確保すること。

東部管内石巻地区の各小・中学校においては、5つの提言に基づいた実践に取り組んでいます。

本リーフレット(P1～P4まで)発行のねらいは、今後も5つの提言を生かした授業づくりを一層推進することです。自校のこれまでの実践を生かすとともに、本リーフレットを参考にして、全教職員の共通理解のもと、更に焦点化、重点化して実践するようお願いいたします。

管内小・中学校第2回校内研究研修会において、学力向上に向けた5つの提言の具体的な取組をグループ協議しました。この協議においては、各校での実践をもとに今後の取組について活発に話し合わせ、特に「提言4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。」における提案が多く出されました。このことを踏まえ、本リーフレットは、提言4に係る実践を中心にまとめています。



「学力向上に向けた5つの提言の具体的な取組」についてのグループ協議  
(平成26年度管内小・中学校第2回校内研究研修会 H27.1.27)

**提言4** 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

- 学んだことが見えるノートづくりをめざして、自分の考えとともに友達の考えも書かせるようにしましょう。
- ・板書を写すだけでなく、自分の考えや気づき、友達の考えをどんどん書き込むノートづくりを指導する。
- ・根拠や理由を付けて自分の考えを書き、友達の考えも書き込めるノートづくりを指導する。
- ・できるだけ共通のノートを使用させ、統一したノートの使い方を指導する。
- ノートに書いた自分の考えをもとに、学び合いを充実させましょう。



- ・子供がノートに書いた考えを見取り、意図的指名をするなどして考えを深めたり、広めたりする。
- ・考えが間違っている場合でも消しゴムで消さず、間違いに気付かせたり、考えを修正させたりする。
- ・友だちの考えのよさや自分の考えとの違いをノートに書かせ、学び合いに生かす。

**ノートの実例① 小学校第4学年 算数科「小数のかけ算」**

2/16

問 1 m の重さが 1.36 kg の鉄のぼう。このぼう 7 m の重さは何 kg ですか。

図

式

$$1.36 \times 7$$

め 1.36 × 7  
100 の位 × 整数の計算のしかたを  
考えよう。

自

$$\begin{array}{r} 1.36 \\ \times 7 \\ \hline 9.52 \end{array}$$

理

$$9.52 \div 100 = 952$$

$$1.36 \times 7 = 9.52$$

100 ↓      ↑ 100

$$136 \times 7 = 952$$

りすちんがや、たふうに  
1.36 を整数にして (×100)  
最後に ×100 した分 ÷ 100 する。

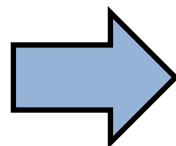
共通の記号等を使い、統一したノートづくりを行っています。

問題文を書き、求めることに下線を引いています。

図をかいて解決の見通しを立て、立式しています。

めあて(学習課題)を書き、解決の見通しをもとに、言葉や式などを用いて、自分の考えを書いています。

友だちの考えをもとに、答えを100で割ることに気付いています。友だちの考えから、自分の考えを深めています。



ノートの実例② 中学校第2学年 国語科『少年の日の思い出』

中心発問に対しての考えを記入しています。また、それをもとにグループで話し合い、他の生徒の考えを書いています。

ノートを2段にして、上段にめあて、下段にまとめを書くよう、工夫しています。

めあて（学習課題）をノートに書き、課題を自覚させた上で、自分の考えを書いています。

グループでの話し合いから、新たに気付いたことを加えて、再度自分の考えをまとめています。

自分の考えを分かりやすい言葉でまとめています。

振り返りをするにより、数学的な考えのよさに気付いています。

教師の励ましや認めるコメントが朱書きされています。

**提言1** どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。

**提言2** 子供をほめること、認めること。

- 教師と子供、子供同士が安心して話せるような温かい信頼関係を築きましょう。
  - ・子供と一緒に学習したり、活動したりする時間を大切にする。
  - ・授業、学校行事、部活動等での子供のよさを養護教諭、スクールカウンセラー等も含めた職員間で情報交換をし、一人一人の子供と関わる機会を増やす。
  - ・朝の会、帰りの会においても子供のよさを取り上げたり、子供のよい考え、よい行動等を教室や廊下等の壁面に掲示したりして、学級の認め合いの雰囲気を醸成する。
- 教師が子供の意見や考えをほめる、認めるとともに子供同士が互いの考えをほめる、認めることにより、学びの達成感を高める授業を展開しましょう。
  - ・子供の考えや意見、意欲、態度、考える過程等について、具体的にほめる。
  - ・ノートに書いた考えをもとに意図的指名を行ったり、つぶやきを取り上げたりすることで、多様な考えをほめ、認める。
  - ・挙手が少ない子供にも発表の機会を与え、自信をもたせる。
  - ・振り返りの相互評価において、友達の良かったところを記入させ、発表させる。



**提言3** 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

- 子供たちにねらいを確実に自覚させましょう。
  - ・子供たちに疑問や問いをもたせた上で、授業のねらい（学習課題）を提示し、課題解決意欲を高める。
  - ・ねらいをノートに書かせることを徹底し、記入の仕方を統一する。
- ねらいに基づいた振り返りをさせましょう。
  - ・発問の精選、自力解決や集団解決の適切な時間配分等により、振り返りの時間を確保する。
  - ・学習のまとめをしっかりと板書する。
  - ・授業感想は、ねらいに対応させて、自分が分かったことや学んだこと、友達の考えのよさ等も記入させる。

